

「千葉、市原、木更津、伝道の歩み」

～開拓伝道 50 年、県庁所在地に教会を～

(東京地方バプテスト教会連合・定期器総会

2020/4/29 開会礼拝メッセージ)

井本義孝牧師 (千葉教会・木更津伝道所)

土地なし、会堂なし、牧師館なし

1982年8月1日千葉厚生年金休暇センターにて教会組織諮問会議を行い、栗ヶ沢教会牧師(当時)松見俊議長のもとに千葉バプテスト教会は誕生した。同年8月の年次総会にて連盟加入。この時議長が賛否を問うも声なきところ、鍋倉勲師の賛成発言により拍手。伝道開始は井本家族の北九州市からの来葉により、時に1971年4月のことであった。

草創期 1971～1973年 (1969年 西南学院大学神学部神学専攻科修了)

1971年千葉県社会福祉事業団に就職し2か月後千葉県文化会館にて「バーテルの精神とキリスト教」と題し講演。聴衆2名。12月最初のクリスマス礼拝と祝会を千葉市千城台西町集会所にて開催。児童、成人、合わせ約200名の盛況であった。後に西町集会所にて日曜礼拝及び「よいこの会」を実施。同時に同信の友を探し訪ねた。この時の最初の姉妹がF姉

で家庭を開放され礼拝を守った。約 50 年後の今も千葉若葉教会の中心メンバーとして活躍されている。翌年先輩の助言を受け、恵泉バプテスト教会を訪ね千葉伝道支援を要請する。およそ半年間、袖ヶ浦市の仕事を終えてから夜の集会に参加し、支援を願ったが断念するに至った。1973 年 2 月礼拝場所として F 姉宅が提供される。

家の教会時代 1973～1980 年

来葉 2 年後、1973 年 8 月市原市若宮 7-1-7 に転居。11 月津田沼キリスト教会千葉伝道所となる。1974 年 5 月、全国支援伝道拠点教会として申請、連盟より幹事 2 名視察のため来られるが後に却下される。牧師宅が市原市に転居。

1975 年 1 月千城台自治会館のほかに、礼拝場所として福新楼中華店が加わる。3 月連盟・中島義和常務理事を迎え特別礼拝を持つ。9 月「家の教会方式と今後の伝道」と題し研修会を持つ、井本宅。10 月、市原市姉ヶ崎にて「青葉台集会」を始める。11 月、井本按手礼諮問会議にて按手を受ける。青葉台では幼稚園にて不定期に伝道集会を持ちキリスト教主義の園長に協力した。

1976年2月から千葉市千城台集会は家庭及び自治会館中心、市原市は井本宅及び青葉台幼稚園にて主日礼拝を持つようになり、時々合同礼拝を行った。3月園長鈴木静兄が高輪プリンスホテルにて挙式、司式：井本。後に鈴木兄のご両親が品川バプテスト教会会員となる。10月全国支援実験開拓伝道に応募する。12月クリスマス礼拝及び祝会を千葉厚生年金休暇センターにて行う。

1977年1月全国支援実験開拓伝道に関して連盟訪問。7月不適との通知を受ける。

10月青葉台集会有る事情にて中止となり、井本宅の「若宮集会」のみとなる。10月9日特別伝道集会を「人間の値打ち」と題し、連盟・金子純雄常務理事をお招きし、合わせて4人の献児式を行う。

1978年2月千葉伝道推進委員会発足、3月教会組織推進委員会が設置された。この頃、教会と伝道所の関係が上手くかみ合わないのを感じるようになる。

11月、東京地区連合秋の集いが目白ヶ丘教会にて行われ「首都圏伝道」について井本発題。

1979年7月ドイツバプテスト・ボーク師ご家族を招待約一ヶ月案内交流する。11月特別伝道集会に木下弘人師（富津教会牧師兼望みの門施設長）が「神の

招き」と題し井本宅にて講演。21年後木下施設長の引退に伴い私が後任となるとは当時夢にも思わなかった。

1980年3月「若宮集会」と「千城台集会」の合同礼拝及び定期総会開催、千葉厚生年金休暇センター。9月、マーサ-宣教師夫妻と面会。「千葉のために来ました」と語られ涙を流された。津田沼キリスト教会と板ばさみになり、松江に行かれたことは忘れられない。12月、竹原姉妹信仰告白なされるも故郷浜松で受浸を希望され、安東巖師より授浸される。

充実発展期 1981～1990年

宣教団研修会にて飛び入り支援を要請

1981年4月富野バプテスト教会にて木村公一牧師就任式、井本奨励。この年、合同礼拝、野外礼拝、特別礼拝、全国婦人大会、年次総会、会堂建築資金バザー等行う。

1982年1月、連盟・安藤榮二宣教室長をお招きして特別礼拝「教会組織とは」で会員研修する。1月25日、天城山荘にて宣教団の集いがあるのを耳にしてアポなしで飛び込む。その時通訳の労をおとり下さった力丸悦郎師には本当に感謝であった。また最前列にてお聞き下さったのが、リディア・アンド・ラ

ン・ハンキンス御夫妻で、後に千葉市千城台集會を
応援して下さるのである。主の御名はほむべきか
な！ 5月、一泊研修會「正しい教會形成」講師：江
ヶ崎清臣師。7月、臨時總會「教會組織について」千
城台北町自治會館。8月1日、千葉バプテスト教會
誕生！ 同月18日連盟加入（以上 冒頭前述）。

1983年2月、リディア・ハンキンス師は千城台集會
にて説教を開始され、大いに力づけられる。6月26
日協力牧師として就任。以後1989年3月まで献身的
に市川市大野のお宅から通われ千城台の皆さんを励
まされ、またこの間會員各自賜物を用いて伝道に励
まれ千葉若葉教會の基盤が形成されたと言えよう。

1990年3月定期總會にて千葉市千城台集會を伝道所
として會員14名を株分けした。それと共に會堂建設
積立金1350万円を折半、それぞれが千葉市と市原市
で奇しくも自主的に自立の歩みが始まった。7月、家
の教會（73年から90年まで）から借家會堂に移る。

獻堂の喜び そして新たな伝道へ 1991年～

1991年～市原市における17年の家の教會は會員の増
加並びに子供たちの成長などから、次第に使いつら
くなり、遂にJR八幡宿駅近くに借家を求め千葉教
會、會堂とした。

1991年7月、時田光彦牧師就任。奨励は連盟・内藤淳一郎常務理事。

1993年10月、千葉若葉教会献堂式。

1997年9月、時田牧師が奔走して会堂建設用地として国有地払い下げ入札に参加し、落札。

1998年、千葉教会、会堂起工式。

1999年5月、千葉教会、会堂献堂式。

2004年、木更津ミッションスタート。

2016年4月、千葉教会を母教会として、木更津伝道所開設、株分け5名。

結びに

恩師菅野救爾先生（西南女学院教師、愛の園保育園初代代表者、富野バプテスト教会創立牧師）の真似をして50年。「ご先祖に打ち死にさせて高枕
主の道は遠大なり せかず急がず」

あとがき

「手には仕事を心に神を」、ベーテル（ドイツの医療・福祉都市）のモットーである。街全体が福祉の町として機能しているベーテルは、明治維新とほぼ同時代1860年代から発展してきた。これはこれで存在価値は大きいであろう。

しかし、大学教育が授業料無料であり、働く人は必ず4週間は消化を義務付けられている年次有給がある。同じ75年前の第二次大戦敗戦国として、この社会の差異が生じた基は何か。いまだに解決の出来ぬ課題としてわだかまっている。働くことが美德の国と、労働は一種の刑罰と考える国との差でもあろうか。

閑話休題

少数にひるまず、多数を誇らず。もし自主、自立、自給の伝道者の増加が求められるのであれば、神学教育は知よりも力、理屈より実践が重んじられる必要がある。

金沢の由緒ある大源寺の後継者に生まれた升崎外彦師は賀川豊彦と共に底辺伝道を続けた。師のモットーは「死に至るまで忠信」であった。キリストは常に福音を説き、福祉を实践した。北九州の奥田知志師と中村哲医師とは共に現代最大の伝道者であろう。

伝道は生き方である。いかに生くべきか。若者に触れるには、医療、教育又は福祉の仕事が最適ではないか。神学教育に福祉現場での実習を必須としてほ

しい。神学教育は人間教育でなくてはならないと考える。

働きつつ学び、働きつつ伝道することは、体力勝負でもある。職業としては医療、教育、福祉がのぞましいであろう。菅野救爾先生の父であり、九州での初穂として入信され、鹿児島キリスト教会の牧師でもあった菅野半次師は「病床に在って、伝道だ伝道だ」と叫ばれたと聞く。同氏は1935年に天に帰られた。小職はこの年に生まれた。 感謝。